

## 1. 発達心理学の視点

- 発達心理学とは
  - “発達”という視点に基づいて、人間を理解しようとする学問
- 発達段階
  - 乳児期, 幼児期, 児童期, 青年期, 成人期, 老年期
- 生涯発達
  - 人間は、死ぬまで発達を続ける存在である
- 獲得(増大)と喪失(縮小)
  - 原始反射 → 随意運動
  - あらゆる言語 → 必要な言語

1. 今日は発達心理学の勉強をします。

2. 発達心理学は心理学の一領域で、“発達”という視点に基づいて人間を理解しようとする学問です。

3. 発達は連続的なものですが、行動や人間関係、ものの考え方が大きく変化する時期を捉えて、いくつかの発達段階に区分します。

4. 代表的な発達段階は、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期です。

5. 乳児期は生まれてから1歳ごろまで、幼児期は1歳から6歳、児童期は6歳から12歳、青年期は12歳から30歳、成人期は30歳から60歳までで、60歳以降が老年期です。

6. 発達心理学では、こうしたさまざまな発達段

1. Welcome ladies and gentlemen. Today, I introduce to you the outlines of the discipline of developmental psychology.

2. What is referred to as the developmental psychology is a major field of investigation within the discipline of modern psychology. It analyses human beings from the perspective of their “development”.

3. Development, by definition, occurs continuously. It is divided into several stages according to the change in personal behavior, interpersonal relationships, and cognitive functions.

4. Typical developmental stages are infancy, childhood, school age, adolescence, adulthood, and senescence.

5. The stage of infancy begins at birth and concludes at the age of 1, childhood stage is between the ages of 1 and 6, school age is between the ages of 6 to 12, adolescence is the period from the age of 12 to 30, adulthood refers to the period between 30 and 60, and finally senescence is the period of our lives when we pass the age of 60.

6. The discipline of the developmental psychology



階にある人の行動や認知、対人関係の特徴を調べたり、加齢に伴う変化を調べたりします。

7. これまでの発達心理学は青年期や成人期を発達のゴールと考え、生まれた子どもがどのようにして大人になっていくのか、そのプロセスやメカニズムを調べることが研究の中心となっていました。
8. しかし、最近では成人期から老年期にかけて、大人になってから死ぬまでの過程も発達と考えられるようになってきました。
9. このような、人は死ぬまで発達を続ける存在であるという考え方を生涯発達と言い、生涯発達の視点に基づいた研究を生涯発達心理学と言います。
10. 生涯発達心理学の重要な視点の1つに、人間は獲得と喪失を繰り返しながら発達していく存在である、というものがあります。いろいろなことができるようになることだけが発達ではなく、機能を失うことも発達と考えるのです。
11. 例えば、乳児は原始反射と呼ばれる反射を持っていますが、原始反射が消失することで随意運動が可能になります。
12. 原始反射とは反射の一種で、中枢神経系が発達することで、生後1年ほどの間に消失してしまう反射のことです。
13. 乳児の行動は、初めは原始反射に支配されていますが、原始反射が消失することで、自分の意志に基づいて体を動かすことができるようになるのです。

examines the features of behavior and interpersonal relationships of people in different developmental stages. It examines the changes in these aspects throughout their aging process.

7. The early developmental psychologists considered adolescence or adulthood as the ultimate goal of development. The research focus used to be on revealing the process and mechanism of the time period between early development and adulthood.
8. The contemporary researchers consider the change from adulthood to senescence which ultimately concludes in death also as a stage of development.
9. The notion that human existence is a continuous process of development that only comes to a halt in death is defined as life-long development. The discipline that is based on this notion is called "life-long developmental psychology".
10. The definition of development does not only refer to the process of acquisition of various functions but also to the loss of such functions.
11. For example, infants possess primitive reflexes, and the loss of these reflexes enable infants to carry out voluntary movement.
12. Primitive reflexes disappear in the first year of an infant's life as the central nervous system continues to mature.
13. At first, infant behavior is dominated by primitive reflexes, and when they disappear, an infant can move her or his body in any way she or he likes without being limited by



14. また、生後半年くらいまでの乳児は世界中のあらゆる言語を聞き分ける能力を持っていますが、こうした能力は次第に衰え、自分が生きていくうえで必須の言語に関する能力だけを向上させていきます。

15. 人は現在持っている機能を失うことで、新たな機能を獲得することができるのです。

16. このように、人間は生涯にわたって、獲得と喪失を繰り返しながら発達し続ける存在なのです。

17. 発達心理学では、こうした人間の生涯にわたる発達のプロセスやメカニズムを解明することが研究の主題となります。

her primitive reflexes.

14. Infants from birth until the first 6 months of their lives are capable of identifying any of the human languages they hear around them. But this ability is inevitably lost and the ability which is related to the language essential to their life (which is their mother tongue) and immediate surroundings develops.

15. In order to lose a function gained at an earlier stage of development human beings acquire a new function.

16. As discussed above, human existence is a continuing development through a cycle of acquisitions and losses.

17. In the discipline of developmental psychology, the process of life-long development and its mechanisms are the main research topics.

## キーワード

・発達段階　・乳児期　・幼児期　・児童期　・青年期　・成人期　・老年期　・生涯発達心理学  
・原始反射　・随意運動

## 関連用語

## 日本語解説

### 文1. 「発達」

人や動物などが時間とともに、成長と学習を要因として、その身体的・精神的機能を変えていくプロセス。

例：子どもの知的発達を研究している。

ここの筋肉が著しく発達している。練習の成果だ。

人や動物以外でも規模が大きくなったり、より完全に近い状態に近づいたりするときに使います。

例：低気圧が発達してきているので、明日は雨になるでしょう。



さいきん ぎじゆつ はったつ  
最近の技術の発達がめざましい。

development は、発展、開発、展開などと訳されることもあるので、注意が必要です。

れい あたら ぎじゆつ かいはつ きんだいしゃかい はってん  
例：新しい技術が開発され、近代社会がさらに発展した。

## 文 2. 「一領域」

がくもん けんきゆう せんもん ぶもん ぶんや しんり がく じっけんしんりがく りんしょうしんりがく  
学問・研究などで専門とする部門・分野のひとつ。心理学にはほかに「実験心理学」「臨床心理学」  
など多くの領域に分かれています。

## 文 2. 「・・・という視点に基づいて」

ばあい ばあい してん ちたば かんてん い にんげん りかい さい はったつ  
この場合の「視点」はものを見る立場・観点とも言い換えられます。人間を理解する際、「発達」  
という観点から考えていくこと。

れい しゃかい しんぽ してん もと ねんかん しりょう ぶんせき  
例：社会の進歩という視点に基づいて、100年間の資料を分析していく。

## 文 6. 「加齢に伴う」

ねんれい ま ねんれい ねんれい  
年齢が増していくにしたがって変わること。年とともに。

れい かねい ともな しんたいのうりよく おとろ いちじ  
例：加齢に伴う身体能力の衰えは著しい。

## 文 9. 「生涯」

い あいだ いっしょう あいだ しゅうしん しゅうせい い しょうがい  
「生きている間」「一生の間」「終身」「終生」とも言い換えられる。かつては生まれてから大人  
になるまでの変化を扱っていた発達心理学が、生きている間、つまり死ぬまでの間の変化を扱う  
ようになったため、あえて生涯発達と呼びます。

れい しょうがいどくしん  
例：生涯独身であった。

## 文 10. 「機能を失う」

いぜん きのう うしな たと はや はし きおく  
以前できていたことが、できなくなること。例えば、早く走れなくなったり、記憶できなくなつた  
りすることなど。

れい ひこうき じこ こしょう すいへい たも きのう うしな げんいん  
例：飛行機の事故は、故障で水平を保つコントロール機能を失ったことが原因だ。

## 文 14. 「衰える」

きのう かつどうりよく よわ じょうたい  
機能や活動力などが弱った状態になること。

れい せんしゅ ちから おとろ はや たま う  
例：あの選手は、力が衰え、速い球が打てなくなった。



## 2. 発達心理学が扱う代表領域

- 個人内発達
  - 認知, 言語, 思考など
  - ピアジェの認知発達論
- 対人間発達
  - 対人関係(親子, 仲間), 社会性, 自己など
  - ボウルビイの愛着理論

1. それでは、発達心理学にはどのような研究分野があるのでしょうか。
  2. 発達心理学の研究領域は、大きくは2つに分けることができます。
  3. 1つは、認知や言語、思考など、人のものに対する見方や考え方を扱う個人内領域の発達です。それぞれの発達段階にある人たちの、認知や思考の特徴を明らかにしたり、認知や思考の発達の変化を検討したりします。
  4. もう1つは、親子関係や仲間関係などの対人関係と、社会性や自己など、自分と他者とのインターフェースとしての機能に関する対人間領域の発達です。
  5. 親子関係や仲間関係は発達段階ごとに大きく異なった様相を見せます。
  6. 親子、恋人、夫婦などの親密な2者関係や、児童期のギャング集団など、より大きな集団と
1. So, let us look at the research area of developmental psychology?
  2. The research area in the discipline of developmental psychology is divided into two distinct fields.
  3. 1-The first is the intrapersonal development which examines the ways of thinking such as cognition, language, and thought process at personal level.
  4. 2-The second research area of developmental psychology is the interpersonal development field which examines interpersonal relationships such as the one between parents and children as well as peer relationships. In this area, we also examine the development of individual sociability which enables the necessary interaction between an individual and others.
  5. Parent-child and peer relationships differ greatly according to the specific developmental stage.
  6. The formation and development of relationships and behavior in parent-child, romantic and marital



関係の持ち方、関係の中での振る舞いの発達などが検討課題です。

7. 特に、児童期までの仲間関係では遊びやけんかが多発します。

8. こうした遊びやけんかを通して、子どもたちは社会性を発達させていきます。

9. 社会性には、ソーシャルスキル、共感性、道徳性などが含まれます。

10. 今日は、個人内発達の中からピアジェの認知発達論を、対人発達の中からボウルビイの愛着理論を取り上げます。

relationships, and gang groups in school age are examined.

7. Especially by the school age peer relationships begin to include plays and fights.

8. Children develop sociability through these plays and fights.

9. Sociability is a combination of social skills, empathy feelings and a sense of morality that all develop through interactions with others.

10. From this point onwards I want to talk about Jean Piaget's cognitive theory of intrapersonal development and John Bowlby's attachment theory of interpersonal development.

## キーワード

・認知 ・社会性 ・自己 ・ギャング集団 ・ピアジェ ・愛着理論 ・ボウルビイ

## 関連用語

11. 発生的認識論(はっせいいてきにんしきろん):genetic epistemology

12. 知覚(ちかく):perception

13. 社会化(しゃかい化):socialization

## 日本語解説

文4.「対人関係」

他の人に対する関係。ものに対する場合は、「対物」(たとえば、「対物事故」など)

文6.「振る舞い」

おこない、行動のこと。人の目にみえるような動作。

例: すること、なすこと、あの人のすべてのふるまいが気に入らない。

また、「ふるまう」の意味の中には、もてなす、ごちそうするなどの意味になることもあります。

例: ふるまい酒にすっかり酔ってしまった。



文7.「けんか」

<sup>ひと</sup>人と<sup>ひと</sup>人との<sup>あらそ</sup>争い。

例：<sup>れい</sup>兄弟<sup>きょうだい</sup>げんかばかりしている。けんかはもうやめなさい。

文9.「含まれる」

<sup>ふく</sup>含む、<sup>ふく</sup>含める

文10.「・・・を取り上げます」

<sup>した</sup>下にあるものを<sup>て</sup>手にとってひろいあげることから、<sup>とく</sup>特に<sup>と</sup>取り<sup>た</sup>立てて<sup>もんだい</sup>問題とすること。

例：<sup>れい</sup>今日の<sup>きょう</sup>テーマは、これを<sup>と</sup>取り<sup>あ</sup>上げます。

わざわざ<sup>と</sup>取り<sup>あ</sup>上げるほどのことでもない。

文10.「愛着」

<sup>ひと</sup>人や<sup>もの</sup>物を<sup>だいじ</sup>大事に<sup>おも</sup>思う<sup>き</sup>気持ち<sup>も</sup>がはなれられないこと。<sup>あいじょう</sup>愛情に<sup>おも</sup>ひかれて<sup>き</sup>思い切れないこと。<sup>しゅうちやく</sup>執着<sup>する</sup>すること。

例：<sup>れい</sup>愛着<sup>あいちやく</sup>のある<sup>おも</sup>思い出<sup>で</sup>の<sup>しなもの</sup>品物だ。

子どものころのおもちゃに<sup>あいちやく</sup>愛着<sup>かん</sup>を感じている。



### 3. ピアジェの認知発達論

- 人の、物や世界に対する見方の発達の變化を理論化
  - 認知の発達とはスキーマの発達である
  - 同化と調節により、スキーマが発達する
- スキーマ: 認識の枠組み
- 同化: 既存のスキーマを使って情報を取り入れること
- 調節: 情報に合わせてスキーマを変更すること

1. まず、個人内発達の領域から、ピアジェの認知発達論について説明します。
2. 認知とは物や世界に対する見方や考え方のことです。
3. ピアジェは、認知がどのように発達していくのかを理論化しました。
4. 彼の基本的な考えは、“認知の発達とはスキーマの発達であり、スキーマは同化と調節を繰り返しながら発達する”ということです。
5. スキーマとは認識の枠組みのことで、環境世界との関わり方のルールとなります。
6. 同化とは、既存のスキーマを使って外界の情報を取り入れることを指します。
7. また、情報が既存のスキーマにあわなかったときに、スキーマを作り変えることを調節と言います。
8. 例えば、ある人が“ボールをつかむ”というスキーマを持っていたとします。
9. このスキーマを使ってボールをつかむことを同
1. First, I will explain Piaget's cognitive theory of intrapersonal development.
2. Cognition means the way of thinking about specific objects and our surroundings.
3. Piaget developed a significant theory of development of cognition.
4. His fundamental premise is that “cognitive development” is a development of the schema, and that the schema develops through a process of assimilation and accommodation”.
5. The schema is a frame of cognition, and it acts as a rule on how to interact with the outer world.
6. Assimilation refers to the process of taking in the information by using the schema in daily life.
7. When the information can not be taken in by the individual, the schema will change. This is called accommodation.
8. For example, let us assume that a person has a schema of “grasping a ball”.
9. When this person grasps the ball it is called



化と言います。

10. ところが、とても大きなボールだった場合には、いつもと同じやり方ではつかむことができません。そこで、ボールの大きさに合わせて行動の仕方を変えます。
11. これを調節と言い、結果として新しいシエマが獲得されます。
12. このように、シエマは同化と調節によって連続的に発達していきます。
13. シエマの発達自体は連続的に起こるものですが、その中でも、環境世界に対する関わり方が大きく異なる時期を捉えて、4つの発達段階が設定されています。
14. それは、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期です。
15. 以下で、4つの発達段階の特徴を少し詳しく説明していきます。

assimilation.

10. However, if the ball is very large and the person cannot grasp it, she or he will alter her or his behavior accordingly so she or he can succeed in grasping it.
11. This is called accommodation, and a new schema is obtained as a result.
12. The schema develops continuously according to the work of assimilation and accommodation.
13. Although the development of a schema itself occurs continuously, there are four developmental stages of cognition in interacting with the environment.
14. These four stages are 1) sensorimotor period, 2) preoperational period, 3) period of concrete operation, and 4) period of formal operation.
15. Now, I will explain the features of these four developmental stages.

## キーワード

・シエマ ・同化 ・調節

## 関連用語

16. 均衡化(きんこうか): equilibrium
17. スキーマ(すきーま): schema

## 日本語解説

### 文4. 「同化」

文字通り、同じにすること。同じになることを意味します。知識や栄養を外から取り込んで自分のものにする  
ことにも使われます。ピアジェの assimilation の訳語として定着しています。  
「化」は形や性質が変わること・変えることを意味します。たとえば、「強化」はより強くすること、「自由化」は  
自由にすることです。「化石」「化合」「化粧」などにも使われていますが意味は同様に推測できるでしょう。



文4.「調節」

ちょうど良くなるように、すること。ちょうどよくなること。つりあいのとれるようにすること。

例：椅子の<sup>いす</sup>高さを<sup>たか</sup>調節する。

文5.「の関わり方」

関係の<sup>かんけい</sup>もちかた。関係の<sup>しかた</sup>仕方。

「・・・にかかわりあう」は特に<sup>この</sup>好ましくないこととの<sup>かんけい</sup>関係をいうことが多い。

例：つまらないことに関わっている<sup>ひま</sup>ひまはない。

文6.「既存」

すでにあること。「既存<sup>きそん</sup>のシエマ」というのは、その子どもがそれまでの<sup>けいけん</sup>経験の中で<sup>なか</sup>作り上げた、  
すでもっている<sup>わくぐ</sup>枠組み（シエマ）のこと。

文11.「結果として」

「・・・として」は「と」に「する」動詞がついた<sup>かたち</sup>形ですが、意味は助詞のように使われます。「・・・  
ということに意味や価値づけをする」表現<sup>ひょうげん</sup>で、ここでは、「調節<sup>ちようせつ</sup>の結果、新しいシエマが獲得され  
る」ことをいっていますが、特に「結果」に<sup>しやうてん</sup>焦点が当てられています。

例：意味としては<sup>かわ</sup>変わらない。

私<sup>わたし</sup>としては、<sup>はんたい</sup>反対する。

文15.「特徴」

他<sup>ほか</sup>と異なる<sup>こと</sup>特別に<sup>とくべつ</sup>目立つ<sup>めたつ</sup>しるし。特色<sup>とくしよく</sup>。

例：特徴<sup>とくちよう</sup>のあるビルだから、すぐにわかるよ。

これに対して、「特長<sup>とくちよう</sup>」は特に<sup>い</sup>すぐれたところを言います。

例：町<sup>まち</sup>の特長<sup>とくちよう</sup>を生かして、特産品<sup>とくさんひん</sup>をつくり<sup>う</sup>売り<sup>だ</sup>出そう。



## 4. 感覚運動期

- 自分の身体運動や身体感覚を通して外界を理解する  
– 0歳～2歳
- 表象が未成立  
– 言葉を使って考えたり, 頭の中にイメージしたりすることができない

1. 1つ目の段階を感覚運動期と言います。
  2. およそ0歳から2歳までがこの段階に相当します。
  3. この時期の特徴は、環境世界を理解するために、自分の身体運動や身体感覚を利用する点にあります。
  4. 頭の中で考えたり、イメージしたりすることを表象と言います。
  5. 感覚運動期の子どもは表象が形成されていないため、表象を使って思考したり、イメージしたりすることができません。
  6. そこで、彼らは表象を使わずに外界を理解する方法をとっているのです。
  7. 例えば体を動かすと、それに応じて環境世界が変化します。
  8. しかし、こうした変化は一定ではなく、運動の強さや速さそれに応じて環境世界が変化します。
  9. 感覚運動期の子どもは、さまざまに体を動かして、環境世界の変化を感じ取ることで、次第に自分の行動と環境の関わりを理解するように
1. The first stage is the sensorimotor period.
  2. This stage includes children who are in the 0 to 2 year old age group.
  3. This period is very significant because infants begin to understand the environment through their own body movements and somesthesia.
  4. The process of thinking and using one's imagination is called "representation".
  5. Children in the sensorimotor period cannot yet form representations. They cannot think or imagine through representations.
  6. Instead they try to understand environment without representations.
  7. For example, the environment changes only according to the body movement. As they move around so does their environment.
  8. The change in environment is not always the same. It will differ according to the strength and speed of movement.
  9. Children in the sensorimotor period understand the relation between their own behavior and their environment through their body movement and



なっています。

their reception of the change of environment.

## キーワード

・感覚運動期 ・身体運動 ・身体感覚 ・表象

## 関連用語

10. 象徴機能(しょうちょうきのう):symbolic function

11. 循環反応(じゅんかんはんのう):circular response

## 日本語解説

文2.「およそ」

ものごとの概略(がいりやく)をあらわし、「だいたい」、「ほぼ」、「およそ」、「たいてい」「約(やく)」などと同じように使(つか)います。「おおよそ」ともいいます。

例(れい): 地図(ちず)でおよその見当(けんとう)をつけて、実(じつ)際(さい)にいってみる。

今日(きょう)あつまった観客(かんきやく)は、およそ5千名(せんめい)だろう。

文7.「…に<sup>おう</sup>応(おう)じて…が<sup>へんか</sup>変(へん)化(か)する」

「応(おう)ずる」は答(こた)えるという意味で、外(そと)からの働(はたら)きかけを受け入(う)れ、従(したが)うという意(い)味(み)があります。「…に<sup>おう</sup>応(おう)じて」は、

「…につれて」「…に<sup>おな</sup>したがつて」「…と<sup>おな</sup>ともに」などと同じように使(つか)います。「A に<sup>おう</sup>応(おう)じてB が<sup>へんか</sup>変(へん)化(か)する」は、

A が<sup>へんか</sup>変(へん)化(か)すればB も<sup>へんか</sup>変(へん)化(か)する、ということです。

例(れい): 仕事量(しごとりょう)に<sup>おう</sup>応(おう)じて、収入(しゅうにゅう)も<sup>へんか</sup>変(へん)化(か)する。

文8.「一<sup>いつてい</sup>定(てい)」

一(ひと)つに決(き)まってい<sup>うご</sup>て動(うご)かないこと。定(さだ)まった状(じょう)態(たい)。い<sup>き</sup>つも決(き)まってい<sup>き</sup>ること。

例(れい): 温度(おんど)を一<sup>いつてい</sup>定(てい)に保(たも)つ。

間隔(かんかく)を一<sup>いつてい</sup>定(てい)にし<sup>せん</sup>て線(せん)を<sup>ひ</sup>引(ひ)く。

文9.「感(かん)じ<sup>と</sup>取(と)る」

感(かん)じとして受(う)け取(と)る。感(かん)覚(かく)器(き)官(くわん)を<sup>つう</sup>通(つう)じ<sup>りかい</sup>て理(り)解(かい)してい<sup>ふんいき</sup>く。雰(ふん)囲(い)気(き)などから察(さつ)する。

例(れい): こ<sup>じゅうだい</sup>の重(じゅう)大(だい)さを周(まわ)りの人(ひと)の表(ひょう)情(じょう)か<sup>かん</sup>らも感(かん)じ<sup>と</sup>取(と)るこ<sup>と</sup>が<sup>と</sup>で<sup>と</sup>き<sup>と</sup>た。



## 5. 前操作期

- 表象を獲得し、表象を通して外界を理解する  
– 2歳～7歳
- 自己中心性  
– 複数の視点を同時に表象することができない
- 保存概念が未成立  
– 「形や大きさが変わっても数量や重さは変わらない」ということを理解していない  
– 見掛けの変化や変化の一側面にとらわれる

1. 2つ目の段階を前操作期と言います。
2. およそ2歳から7歳までがこの段階に相当します。
3. 前操作期に入ると、表象が獲得されます。
4. そのため、身体運動や身体感覚だけでは捉えられない対象を思い浮かべ、表象を使って外界を理解することができるようになります。
5. ただし、この時期の表象操作にはいくつかの制約があります。
6. 1つは、複数の物事を同時に表象することが難しく、自分の考えや自分からの物の見え方が他者の考えや見え方と同じではないということを理解することができません。
7. これを、自己中心性と言います。
8. 例えば、自分と相手が物を挟んで向かい合っていると、自分には表側が、相手には裏側が見えています。
9. しかし、前操作期の子どもは自分に見えているものが相手にも同じように見えていると考えてしまうのです。
10. もう1つは保存ができないということです。
1. The second stage is the preoperational period.
2. This stage includes children who are in the age group of 2 to 7 years.
3. This period is characterized by the achievement of representation.
4. At this period, through representation, children can understand what they could not previously understand through body movement and somesthesia.
5. However, there are limitations in the operation of representation in this period.
6. Primarily, children can not represent more than one object or event at a time, and cannot understand the difference between their own view and those of others.
7. This is called egocentrism.
8. For example, as two individuals confront each other on either side of a single object, one sees the obverse side and the other one see the reverse side.
9. But children in the preoperational period tend to think that the other person can see the same side as them.
10. Another limitation is that children at this period



11. 見た目の形や大きさが変わっても、物の数や重さは変化しません。
12. しかし、前操作期の子どもは見た目が変化すると、その変化に引きずられて数や重さも変化したと考えてしまうのです。
- cannot understand conservation.
11. Although the figure or the size of an object in appearance changes, the number or the weight of object does not change.
12. But children in the preoperational period tend to think that the number or the weight would change according to the change of the figure or the size of the object.

## キーワード

・前操作機    ・自己中心性    ・保存

## 関連用語

13. 直感的思考(ちよっかんてきしこう): intuitive thinking

14. 前概念(ぜんがいねん): preconception

## 日本語解説

文1. 「前操作期」

「操作期」の順序として前の段階を指す。同様に「前近代」は「近代」より時間的に先立つ時代を指します。このように、時間的、順序として前をさす言い方には、基準より後ろに「前」がつく「午前」「食前」などがあります。これは、「正午より前」「食べる前」になります。

文4. 「を思い浮かべ」

心の中に思い出すこと。

例：父のことはを思い浮かべて

文8. 「物を挟んで向かい合う」

「はさむ」は物と物との間にさし入れて両側から抑えることをいうので、「物を挟んで」は人と人の間に物を入れて、人同士顔を向け合うことを言います。

例：川をはさんで、敵同士向かい合う。

文10. 「保存」

そのまゝの状態を保って失わないこと。空間的、時間的に移動しても、総量が変わらないということ。「数の保存」は、広げておいたり狭めておいたりして置き方が変わっても、数そのものは同じということ。「量の保存」は同じ水を底辺が広いコップから狭いコップに入れると水の高さが高くなるが、水の量は変わらないとい



うこと。このような見た目だけで判断しなくなることを、「保存」ができたといいます。

## 文 12. 「引きずられる」

「引きずる」は、もとは、地面をすって引いていくことをいいます

例: 足をひきずって歩いている。

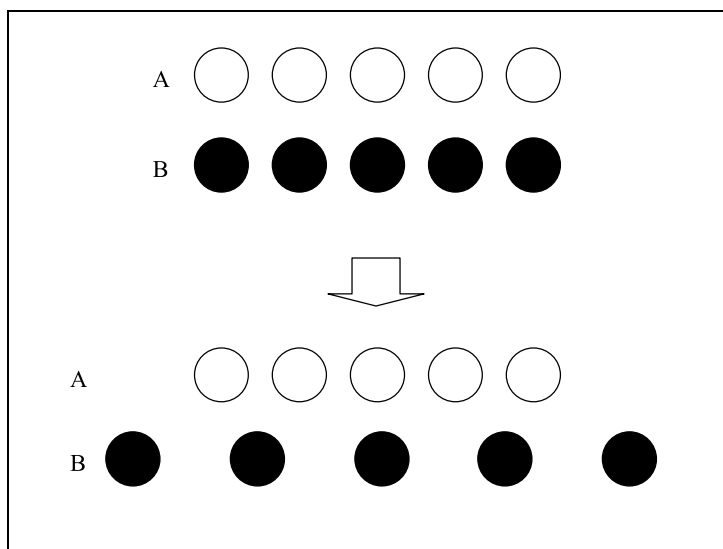
そこから、過去の出来事などの影響をたちきれずにいることをさします。

例: 昔の思い出をいつまでも引きずっている。

「見た目の変化に引きずられて数や重さも変化しとを考えてしまう」は、「見た目が変わると、その変化に影響されて数や重さも変わったとを考えてしまう」ことです。つまり、上の「保存」概念ができていないということ。



## 6. 保存の実験



- |   |   |
|---|---|
| 1. ここで、保存の実験について説明します。  | 1. Perhaps I can explain this by discussing a simple experiment on conservation.  |
| 2. 白いボールと黒いボールがそれぞれ5個ずつあります。                                    | 2. There are five white balls and five black balls.   |
| 3. 最初に、各5個のボールを等間隔に並べ、数が同じであることを確認してもらいます。                      | 3. First, each ball is lined up at equal distance, and a child confirms the number of balls.  |
| 4. つづいて、黒いボールだけを、間隔を広げて並べ替えます。                                  | 4. Then, the experimenter widens the space between the black balls.   |
| 5. その後、白いボールと黒いボールではどちらの数が多いかを質問します。                            | 5. The experimenter asks the child which group has more balls “black” or “white”?   |
| 6. すると、前操作期の子どもは長さという目に付きやすい側面の変化にとらわれて、「黒いボールのほうが多い」と答えてしまいます。 | 6. Children who are still in the preoperational period tend to give the answer “black one” because they are preoccupied the change in length of distance between black balls which is highly visible. |

### 日本語解説

#### 文1. 「保存の実験」

子どもに「保存」概念ができているかどうかを調べるために、実際に子どもを対象として行う実験。

#### 文3. 「等間隔」

間隔が等しいこと。物と物の間の距離が同じであること。



例: 等間隔に木を植える。

文6. 「目につきやすい」

目立ちやすいこと。「目につく」は「目にとまる」とも言います。

例: 目につきやすい服装をしているので、人ごみでもすぐ見つけられる。

「つける」にはさまざまな意味があります。たとえば、「目をつける」の場合は次の意味です。

・感覚や力を働かせる

例: 暗いから、ころばないように気をつけなさい。

あのきれいな人には自分も前から目をつけていたんですよ。

文6. 「・・・にとらわれて」

つかまえられる、拘束されるの意味で、ここでは「目立ちやすい変化に影響されて」という意味です。

「とらえる」は「文章の意味をとらえる」のような文でよく使われます。このときは、「意味を理解する」「視野・知識の中にしっかりとおさめる」のような意味になります。



## 7. 具体的操作期

- 具体的な事物については、論理的な思考が可能になる  
– 7歳～11歳
- 保存概念の獲得  
– 見掛けの変化に惑わされない
- 視点取得  
– 自己中心性から抜け出し、他者の視点に立って物事を考えることができるようになる

1. 3つ目の段階は具体的操作期です。およそ7歳から11歳までとなります。
  2. 具体的操作期に入ると保存の概念を獲得し、見かけの変化に惑わされなくなります。
  3. 先ほどの実験の例だと、間隔を広げたことでボールの列が長くなったとしても、ボールの数自体は変わっていないことを理解できるようになります。
  4. 形や大きさが変わっても、物の数や重さは変化しないということが理解できるようになります。
  5. また、複数の物事を同時に表象し、他者の視点に立って物事を見たり、考えたりすることができるようになります。
  6. これを視点取得、または自己中心性からの脱却と言います。
  7. このように、具体的操作期の子どもは論理的な思考ができるようになります。
  8. ただし、それが具体的な事物に限られるというのが特徴です。
1. The third stage is the period of concrete operation which applies to children in the 7 to 11 years old age group.
  2. Children in this period can understand what conservation is, and they are not deceived by the change in appearances.
  3. If subjected to the above “white balls/black balls” experiment, children who are in this period will clearly see that the number of balls is not altered.
  4. Children in this period can understand the number or the weight of an object does not change even if the figure or the size of the object changes in appearance.
  5. Moreover, children in this period can represent more than one thing at a time, and can contemplate matters from the perspective of others.
  6. This is called perspective taking or decentering.
  7. As seen above, children in the period of concrete operation can think logically.
  8. However, this logical thinking is limited to concrete issues and matters.



9. 次の問題を考えてください。
10. 犬はねずみよりも大きく、ねずみは象よりも大きいとき、犬と象ではどちらのほうが大きいですか？
11. この場合、犬は象よりも大きいというのが正解になります。
12. しかし、実際には象がねずみや犬よりも小さいということはありません。
13. 具体的操作期の子どもは、現実世界での大小関係についての知識から離れることが難しく、この問題にはしばしば不正解となってしまう。
9. Please think about the next question.
10. When a dog is larger than a mouse and the mouse is larger than an elephant, which is larger, the dog or the elephant.
11. In this case, the correct answer is the dog.
12. Naturally an elephant cannot be smaller than a mouse or a dog.
13. Children in the period of concrete operation often give the wrong answers to these questions.

## キーワード

・具体的操作期    ・視点取得    ・自己中心性からの脱却

## 関連用語

14. 論理的思考(ろんりてきしこう) : logical thinking
15. 体制化(たいせい) : organization

## 日本語解説

文2. 「惑わされる」

「惑わす」は考えを混乱させる。分別を失わせるの意味で、ここでは「だまされる」の意味です。

例：あの人はことばが巧みだから、惑わされないように気をつけた方がいいよ。

人や鳥を惑わす虫たちの擬態

「惑わされる」は「惑わす」の受身形

例：あの人の甘い言葉にはつい惑わされてしまう。

文6. 「視点取得」

「取得」は「手に入れること」です。「視点」を手に入れるというのはおかしい言い方ですが、英語の taking の訳語として使われています。他の人からの見え方、立場に立ってものを考えるという意味になります。



「取得」はふつう次のように使います。  
例：資格の取得は就職のために重要だ。  
永住権取得のために苦勞をした。

文 6. 「自己中心性」

自分を中心に考えること。

ピアジェの用語では、自己の視点を超えて考えることができず、物事を相対化したり、客観視したりできず、常に自分の見えや考えで判断する幼児期の思考様式を指します。

「・・・性」⇔講義に役立つ日本語

文 6. 「脱却」

抜け出ること。すてさること。

例：やっと長いスランプから脱却できた。

文 8. 「・・・に限られる」

特にそれだけと決めて、他のものではだめだという意味になります。つまりここでは具体的な物の場合だけできるということになります。

文 13. 「しばしば」

「たびたび」、「何度も」と同じで、ここでは「不正解になることが多い」の意味です。



## 8. 形式的操作期

- 抽象的な物事についても論理的な思考が可能になる  
- 11歳～
- 具体的な事物に縛られない

$$\begin{array}{rcl} A & > & B \\ B & > & C \\ \hline A & > & C \end{array} \quad y = ax + b$$

1. 最後の段階は、形式的操作期です。
  2. およそ 11歳から、この段階に入ります。
  3. 形式的操作期には、具体的な事物に限らず、抽象的な事物についても論理的な思考が可能になります。
  4. 先ほどの三段論法も、犬やねずみといった具体的な情報を取り除き、AはBよりも大きく、BはCよりも大きいから、AはCよりも大きい、と記号を使って論理的に考えることができます。
  5. また、xやyという記号だけを使った関数の理解もできるようになります。
  6. ピアジェの考えた、認知の発達はここで終了となります。
  7. これ以降は、いかに効率よく、的確に認知能力を働かせるかという、情報処理の問題となっていくます。
1. The last stage is the period of formal operation.
  2. This stage starts approximately at the age of 11.
  3. In this period, children can think logically about not only concrete ideas, concepts and issues but also abstract ones.
  4. As shown in syllogism above, children in this period can think logically not only about concrete information like the size of a dog versus the size of a mouse but also about signs such as “if A is larger than B, and B is larger than C, then A is larger than C”. That is, IF  $A > B$  AND  $B > C$  THEN  $A > C$ .
  5. Moreover, children in formal operation period can understand functions that use mathematical signs of x and y.
  6. This is the final period in Piaget’s theory of cognitive development.
  7. After this period, information processing, which is efficient and accurate application of cognitive ability, becomes important.

キーワード



・形式的操作期    ・3 段論法    ・情報処理

## 関連用語

8. 記号論理学(きごうろんりがく): symbolic logic

## 日本語解説

文3. 「抽象的」

ものごとの一般性をとらえる。現実や具体性から離れて、抽象してものを見ること。  
反対は、「具体的」です。

例: 抽象的な議論ばかりしていてもはじまらない。もっと現実を見ろ。

文3. 「可能になります」

ここでは「できるようになる」と同じ。

文6. 「終了」

「終」も「了」も「終わること」を意味します。

例: 本日の営業は終了しました。

文7. 「以降」

ある時から後。以後と同じ。

例: 明治以降急激に近代化が進んだ。

明日以降なら、いつでもいいですよ。

文7. 「的確」

「適確」とも書きます。確かなこと、まちがいないこと。

例: 指導者の的確な判断と指示のおかげで、全員助かった。



## 9. ボウルビィの愛着理論

- 対人関係やパーソナリティの発達に関する理論
  - 母親との間の情緒的な絆(＝愛着)が、子どもの健全な発達には重要
- 社会性やパーソナリティ発達の基盤
  - ネガティブな情動が喚起されたときに、親は自分を助けてくれる、という信念をもとに、社会との関わりをもつ

1. つづいて、対人間発達の領域から、ボウルビィの愛着理論を取り上げて、説明していきます。
  2. ボウルビィは、戦争孤児に関する研究などから、健全なパーソナリティの発達には重要な他者との情緒的な絆が重要であることを見出しました。
  3. こうした情緒的な絆のことを愛着と言います。
  4. 愛着の基本的構成要素は、心理的、物理的な危機に直面したときに、愛着対象は自分のことを守ってくれと信じることができること、そして、自分は助けられと信じることができることです。
  5. つまり、恐怖や不安などのネガティブな情動が喚起されたときに、愛着対象に助けられと期待することができ、助けを求めることができることが、健全なパーソナリティ発達には重要なことです。
  6. こうした期待を形成した子どもは、愛着対象を環境探索の基地として、また心理的エネルギーの補給基地として利用することができるのです。
1. Next, from the research area of the interpersonal development, I will discuss Bowlby's attachment theory.
  2. Bowlby studied a group of World War II orphans and found that it is important for children's healthy personality development to form an emotional bond with others.
  3. This emotional bond is called attachment.
  4. Fundamental component of the attachment is that one can trust that the attachment figures will help one and one that one should be helped by the attachment figures when one is in psychological and/or physical crisis.
  5. That is, it is important for children to be able to expect the attachment figures' help and seek help from them when they experience negative emotions such as fear and anxiety.
  6. Children who form these expectations can use the attachment figures as a base of exploration and the supply haven of psychological energy.



7. つまり、安定した愛着を形成した子どもは安心して基地から離れ、また必要なときにはいつでも基地に戻ってくることができるのです。
8. このように、人は愛着関係を基盤として社会と関わり、社会性やパーソナリティを発達させていくのです。
7. That is, children who form secure attachments can depart from the base at ease and come back there when needed.
8. As described above, people use an attachment relationship as a base of the development of sociability and personality.

## キーワード

・パーソナリティ    ・情緒的な絆    ・愛着対象    ・情動

## 関連用語

9. 世界保健機関(せかいほけんきかん): World Health Organization
10. 二次的動因説(にじてきどういんせつ): secondary drive theory

## 日本語解説

### 文2. 「戦争孤児」

戦争によって両親を失った子ども(みなしご)。「孤児」の孤は一人という意味で、家族や仲間のいない状態をいいます。孤がつく熟語には「孤独」「孤島」「孤立」「孤高」などがあります。いずれも「ひとりだけ」という意味が入っています。

### 文2. 「絆」

馬や犬など、動物をつなぎとめておくつな(ひも)のことを指し、これが人と人との間を結ぶ見えないひも、すなわち愛情などの感情を意味するようになりました。

例: 切っても切れないきずなで結ばれている

### 文5. 「恐怖」

「恐怖」の「恐」も「怖」も「おそれる」と読み、いずれもものごとをこわがることを指します。「恐」はおそれいる、かしこまるという意味で「恐縮」などと使うこともあります。



## 10. 愛着の共通性と個人差

- すべての人が愛着関係を形成する
- 愛着関係の特徴には大きな個人差がある
- 愛着スタイルの測定・分類
  - 新奇場面法
  - 母親との分離と再会, 見知らぬ人との遭遇を含む8場面で構成される実験

- |  |   |
|--|---|
| 1. 愛着には、発達における共通性と個別性が強く見られます。                         | 1. The attachment theory contains the themes of commonality and individual difference of development.   |
| 2. ほぼすべての子どもたちが、特定の人物との間に愛着関係を形成します。                   | 2. Almost all children form attachment relationship with someone special.   |
| 3. この意味で、愛着には共通性があると言えます。                              | 3. In this point, there is a commonality in attachment.   |
| 4. その一方で、形成された愛着関係の様相は人によって大きく異なります。                   | 4. On the other hand, there is a great difference in the features of the attachment relationships.  |
| 5. つまり、愛着には個人差があるのです。                                  | 5. In this point, there is an individual difference in attachment.  |
| 6. 愛着の個人差はエインズワースが中心になって調べました。                         | 6. Mary Ainsworth investigated the individual differences of attachment.  |
| 7. 彼女は、母親との分離や再会、見知らぬ人との遭遇を含む8つの場面で構成される実験的観察法を開発しました。 | 7. She developed an experimental observation method that is composed of 8 situations, which contains deprivation and reunion with mother and encounter with a stranger. |
| 8. この方法は新奇場面法と呼ばれ、およそ1歳から1歳半の子どもが実験の対象になります。           | 8. This method is called the strange situation procedure, and participants are 1 to 1.5 years old children.   |
| 9. 分離や再会という場面は、子どもにとっては日常的に経験する、愛着に関連した危機である。          | 9. Situations such as deprivation and reunion are daily crisis related to the attachment process for  |



り、安全基地や安全の港といった愛着行動が  
高い頻度で観察されます。

10. 今では世界中でこの方法が用いられ、比較文化研究も行われています。
11. 新奇場面法では、危機を経験したときの、愛着行動の組織化のされ方や行動の方向性に基づいて、子どもを4つの愛着スタイルに分類します。

children. Attachment behaviors such as the secure base and safe haven are observed frequently.

10. This procedure is currently utilized in many cultures and cross-cultural studies are conducted.
11. In the strange situation procedure, children are classified into four different attachment styles according to the organization and orientation of the attachment behavior in crisis.

## キーワード

・共通性 ・個性 ・愛着関係 ・エインズワース ・新奇場面法 ・安全基地 ・安全の港  
・愛着行動

## 関連用語

12. 母子分離(ぼしぶんり): maternal deprivation

## 日本語解説

文1. 「共通性」と「個性」

「共通」の「共」は「ともに」、「通じる」は「あてはまる」なので「どれにもあてはまること」の意味です。発達(はったつ)は一人一人(ひとりひとり)違っている面(めん)と同じようにあらわれる面(めん)があり、そのみんなに当てはまることを「共通性」といっています。一人一人(ひとりひとり)違うことを、「個性」といいます。「個」はそれぞれ、「別」は異なることですから、「個性」は、それぞれの異なる面(めん)について見ていくことになります。

文7. 「分離」

「分」は「わかれる」、「離」は「はなれる」で「分離」は「わかれること、あるいはわけはなすこと」の意味になります。人やもの、ことがらについても使います。

例: 成分(せいぶん)を分離(ぶんり)するために遠心分離機(えんしんぶんりき)を使います。

政治(せいじ)と宗教(しゅうきょう)の分離(ぶんり)は基本(きほん)である。

文8. 「新奇」

あたらしく、ふつうでないことを意味します。「奇」は「めずらしいこと、不思議なこと、おもしろいこと」を意味し、「奇跡(きせき)」「奇特(きとく)」「奇襲(きしゅう)」などの熟語(じゆくご)があります。

例: 事実(じじつ)は小説(しょうせつ)よりも奇(き)なり。



なお、2 で割り切れない1, 3, 5などの数を「奇数」といいます。2, 4, 6などは「偶数」です。

文9.「基地」

軍隊や探検隊などの行動の基点となる根拠地のことで、乳幼児も何か不安になったり、危機に直面したりしたときに戻り、そこにいれば安心が得られる場所(人やもの)をもつことが多く、これを安全基地と呼びます。通常母親や身近な人がその基地になることが多いです。

文9.「頻度」

同じことが繰り返しおこる度合やその数を言います。「度数」とも呼びます。

「高い頻度で観察される」というのは、「しばしば見られる」の意味です。反対の「低い頻度」は「めったに見られない」ということになります。



## 11. 愛着スタイル

- 回避型
  - 母親との分離しても混乱・困惑しない
  - 再会時にも母親を歓迎しない
- 安定型
  - 母親と分離すると混乱するが、再会すると身体的接触を求め、落ち着きを取り戻す
- 抵抗/アンビバレント型
  - 母親との分離による混乱が、再会しても収まらない。近接を求めながら、同時に激しい怒りも示す
- 無秩序/無方向型

1. 当初、エインズワースは愛着スタイルを3つに分類しました。
  2. 1つ目は回避型です。
  3. 母親が子どもを置いて部屋から出て行っても泣いたり後を追いかけてたりすることが少なく、母親が戻ってきてもそれを歓迎する様子が見られません。
  4. 危機に際して愛着対象に助けを求めても、それを拒絶されたりかえって余計に愛着対象が遠ざかってしまったりする経験を重ねた子どもは、愛着行動システムを不活性化し、助けを求めず関係を回避するという方法で、逆説的に最低限の関係を維持する方略を獲得します。
  5. その結果、母親の存在に注意を払わず、関わりを回避しているように見える行動を取ります。
  6. 2つ目は安定型です。
  7. 母親が部屋から出て行くと、泣いてしまうなどの情緒的混乱を示します。
  8. しかし、母親が戻ってくると抱っこなどの身体的接触を求め、すぐに落ち着きを取り戻し
1. Originally, Ainsworth classifies three attachment styles.
  2. The first one is the avoidant style.
  3. Children in this group rarely cry or follow their mothers when they leave the room, and do not acknowledge mothers when they come back in the room.
  4. Children who experienced rejection or abandonment when they seek help use this strategy. The strategy involves keeping minimum contact by means of making attachment behavioral system deactivated so as not to seek help. As a result relationships are avoided.
  5. Hence, children do not to pay attention to mother and avoid forming a relationship.
  6. The second attachment style is the secure style.
  7. Children of this style are emotionally upset when mothers leave them.
  8. But they can calm down soon after their mothers come back and physical contact is



ます。

9. 母親<sup>ははおや</sup>がいて、安心<sup>あんしん</sup>して遊び<sup>あそ</sup>に取り組<sup>と</sup>むことができます。
10. 助け<sup>たす</sup>を求めると応<sup>も</sup>じてもらえるという経験<sup>けいけん</sup>を繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>した子<sup>こ</sup>どもは、危機<sup>きき</sup>に対<sup>たい</sup>して苦痛<sup>くつう</sup>を表<sup>ひょう</sup>明<sup>めい</sup>することで適切<sup>てきせつ</sup>にストレッサー<sup>と</sup>を取り除<sup>のぞ</sup>き、情緒<sup>じょうちよ</sup>的混乱<sup>てきこんらん</sup>を収<sup>おさ</sup>めることができます。
11. 3つ目は抵抗<sup>め</sup>型<sup>ていこう</sup>、もしくはアンビバレント<sup>あんびばれんと</sup>型<sup>がた</sup>と言<sup>い</sup>います。
12. 母親<sup>ははおや</sup>が部屋<sup>へや</sup>から出<sup>で</sup>て行<sup>い</sup>くと情緒<sup>じょうちよ</sup>的混乱<sup>てきこんらん</sup>を示<sup>しめ</sup>すのは安定<sup>あんてい</sup>型<sup>がた</sup>と似<sup>に</sup>ていますが、母親<sup>ははおや</sup>が戻<sup>もど</sup>ってき  
たときの行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>には違<sup>ちが</sup>いがあります。
13. このタイプの子<sup>こ</sup>どもたちは、母親<sup>ははおや</sup>が戻<sup>もど</sup>ってく  
ると身<sup>しん</sup>体<sup>たい</sup>的接<sup>てき</sup>触<sup>せつ</sup>を求めますが、それでも情<sup>じょう</sup>緒<sup>ちよ</sup>  
的混乱<sup>てきこんらん</sup>がなかなか収<sup>おさ</sup>まりません。
14. 近接<sup>きんせつ</sup>を求めながら、同<sup>どう</sup>時<sup>じ</sup>に怒<sup>いか</sup>りも示<sup>しめ</sup>すなど、抵<sup>てい</sup>  
抗<sup>こう</sup>的<sup>てき</sup>で両<sup>りやう</sup>価<sup>か</sup>的<sup>てき</sup>な行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>を示<sup>しめ</sup>します。
15. 愛着<sup>あいちゃく</sup>対<sup>たい</sup>象<sup>しょう</sup>の行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>が安定<sup>あんてい</sup>せず、助け<sup>たす</sup>を求めても  
それが受<sup>う</sup>け入<sup>い</sup>れらる<sup>る</sup>か拒<sup>きよ</sup>絶<sup>ぜつ</sup>されるかの予<sup>よ</sup>測<sup>そく</sup>  
が付きにくい環<sup>かん</sup>境<sup>きやう</sup>で育<sup>そだ</sup>った子<sup>こ</sup>どもたちは、常<sup>つね</sup>  
に助け<sup>たす</sup>を求め続<sup>も</sup>けることで、必要<sup>ひつよう</sup>な支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>を確<sup>かく</sup>  
実<sup>じつ</sup>に得<sup>え</sup>ようとしているのです。
16. そのため、愛着<sup>あいちゃく</sup>行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>シス<sup>し</sup>テ<sup>て</sup>ムを過<sup>か</sup>剰<sup>じやう</sup>に活<sup>かつ</sup>性<sup>せい</sup>  
化<sup>か</sup>し、些<sup>さ</sup>細<sup>さい</sup>な危<sup>き</sup>機<sup>き</sup>にも強<sup>つよ</sup>く反<sup>はん</sup>応<sup>のう</sup>するとい<sup>い</sup>う方<sup>ほう</sup>  
略<sup>りやく</sup>を獲<sup>かく</sup>得<sup>とく</sup>します。
17. 4つ目<sup>め</sup>の愛<sup>あい</sup>着<sup>ちゃく</sup>ス<sup>す</sup>タ<sup>た</sup>イルとして追<sup>つい</sup>加<sup>か</sup>されたの  
が、無<sup>む</sup>秩<sup>ちつ</sup>序<sup>じょ</sup>/無<sup>む</sup>方<sup>ほう</sup>向<sup>かう</sup>型<sup>がた</sup>です。
18. これまでの3つは、行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>に違<sup>ちが</sup>いはありますが、  
一定<sup>いってい</sup>の組<sup>そ</sup>織<sup>しき</sup>化<sup>か</sup>された行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>を示<sup>しめ</sup>しているとい<sup>い</sup>え  
ます。
19. 4つ目<sup>め</sup>のタイプは、行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>が組<sup>そ</sup>織<sup>しき</sup>化<sup>か</sup>されてお  
らず、接<sup>せつ</sup>近<sup>きん</sup>か回<sup>かい</sup>避<sup>ひ</sup>かなど、行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>の方<sup>ほう</sup>向<sup>かう</sup>性<sup>せい</sup>が定<sup>さだ</sup>  
まってい<sup>い</sup>ないものを指<sup>さ</sup>します。

resumed.

9. Mother's existence makes the child play freely.
10. Children who experienced the success of help-seeking can remove stressors and soothe emotional disruption by expressing distress.
11. The third one is the resistant/ambivalent style.
12. The emotional disruption of this type evoked by mothers' departure is similar to that of the secure style, but the reunion behavior differs.
13. Children of this type seek physical contact with their mothers but the emotional disruption is hardly soothed.
14. Such children display a protestant and ambivalent behavior, seeking proximity and showing anger at simultaneously.
15. Children who have an attachment figure with an unstable and unpredictable response try to get support with certainty by continuing to seek help.
16. So, they obtain a strategy that is hyperactivation of the attachment behavioral system to make strong reaction to an ambiguous crisis.
17. The fourth style is the disorganized/disoriented style.
18. Although there are differences in behavior, the first three styles described above involve the display of organized behavior.
19. Children in the fourth style do not show organized and oriented behavior.



## キーワード

- ・愛着スタイル   ・回避型   ・愛着行動システム   ・安定型   ・抵抗型   ・アンビバレント型
- ・無秩序/無方向型

## 関連用語

20. 不活性化方略(ふかつせいいかほうりやく): two dimensional coordinates

21. 過活性化方略(かかつせいいかほうりやく):

## 日本語解説

文 1. 「当初」

そのはじめ、最初。

例: 来日当初は、わからないことばかりだった。

当初の予定では、こんなはずではなかった。

文 2. 「回避」

身をかかわして避けること。まぬかれるために避けること。

例: 責任を回避した。

文 4. 「・・・に際して」

ある場合や状態に当たって。そのときに。

例: 出発に際して、みなさまにお礼を申し上げたい。

文 4. 「かえって」

反対に。逆に。

例: スポーツのしすぎはかえって体によくない。

文 4. 「余計に」

いっそう。もっと。

例: ほかの人より余計に働いたおかげで、認められることになった。

文 4. 「遠ざかる」

遠くに離れる。とおのく。

例: 人里から遠ざかり、ひとり山歩きを楽しむ。

文 4. 「逆説的に」



普通<sup>ふつう</sup>考える<sup>かんが</sup>のは反対<sup>はんたい</sup>の方向<sup>ほうこう</sup>から真理<sup>しんり</sup>を言う<sup>い</sup>こと。

例: 逆説<sup>れい</sup>的に言<sup>きやく</sup>えば、金<sup>かね</sup>なんか無<sup>な</sup>い方が幸<sup>ほう</sup>せである<sup>しあわ</sup>。

#### 文 8. 「抱っこ」

幼児<sup>ようじ</sup>に対して使<sup>たい</sup>うことば(幼児語<sup>ようじご</sup>)で「抱く<sup>だ</sup>」とこと指<sup>さ</sup>す。同様に、「立つ<sup>た</sup>」は「たっち」、「おぶう」は「おんぶ」で、「おなか」(腹<sup>はら</sup>)「ほっぺ」(頬<sup>ほお</sup>)「おっぱい」(乳<sup>ちち</sup>)など、いずれも幼児に理解<sup>ようじ</sup>、発音<sup>りかい</sup>しやすい形<sup>はつおん</sup>になっているものが多い。身体<sup>おお</sup>や基本動作<sup>しんたい</sup>など幼児の身<sup>きほん</sup>の周<sup>どうさ</sup>りの言葉<sup>ようじ</sup>に多く、地域差<sup>みまわ</sup>も大きい。<sup>ことば</sup> <sup>おお</sup> <sup>ち</sup> <sup>い</sup> <sup>き</sup> <sup>さ</sup> <sup>おお</sup>

#### 文 10. 「収める」

「混乱<sup>こんらん</sup>を収める<sup>おさ</sup>」の「収める<sup>おさ</sup>」は落<sup>お</sup>ち着<sup>つ</sup>けること、安定<sup>あんてい</sup>した状態<sup>じょうたい</sup>にすること。

例: 彼<sup>れい</sup>の調停<sup>かれ</sup>のおかげ<sup>ちょうてい</sup>で紛争<sup>ふんそう</sup>が収<sup>おさ</sup>まった。

ほかにも「収める<sup>おさ</sup>」には多<sup>おお</sup>くの意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>があります。たとえば、

・しまう、あるべき所<sup>ところ</sup>にきちん<sup>い</sup>と入<sup>い</sup>れる。

例: この文<sup>れい</sup>章<sup>ぶんしょう</sup>を紙<sup>が</sup>一枚<sup>まい</sup>に収<sup>おさ</sup>まるようにま<sup>ま</sup>とめてほ<sup>ほ</sup>しい。

・ある成<sup>せい</sup>果<sup>か</sup>をあげ<sup>あ</sup>げる。

例: すばらしい成<sup>せい</sup>功<sup>こう</sup>を収<sup>おさ</sup>めた。

などです。

「おさめる」はこの他に「納<sup>おさ</sup>める」「治<sup>おさ</sup>める」「修<sup>おさ</sup>める」などの漢字<sup>かんじ</sup>があります。使<sup>つか</sup>い方<sup>かた</sup>には違<sup>ちが</sup>いがある<sup>あ</sup>るこ<sup>こ</sup>ともあ<sup>あ</sup>ります。

#### 文 13. 「なかなか・・・(否定形)」

簡単<sup>かんたん</sup>には。すぐには。

例: 実験<sup>れい</sup>が、な<sup>じっけん</sup>かなかうま<sup>ま</sup>くい<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ない。

#### 文 16. 「些細な」

少<sup>すこ</sup>しのこ<sup>こ</sup>と。わ<sup>わ</sup>ずか<sup>か</sup>な。と<sup>と</sup>るに<sup>に</sup>たり<sup>り</sup>ないこ<sup>こ</sup>と。

例: 些<sup>れい</sup>細<sup>さい</sup>なこ<sup>こ</sup>とを気<sup>き</sup>に<sup>に</sup>して、大<sup>だい</sup>事<sup>じ</sup>なこ<sup>こ</sup>とを忘<sup>わす</sup>れて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。



## 12. 生涯発達と世代間伝達

- 乳幼児期の愛着スタイルは、児童期・青年期の友人関係や恋愛関係の特徴と関連する

⇒乳幼児期の愛着スタイルが、その後の対人関係の発達に影響

- 親子の愛着スタイルは一致する
    - 親の養育行動は子どもの愛着形成に影響する
    - 親の愛着スタイルによって養育行動は異なる
- ⇒養育行動を通して、親の愛着スタイルが子どもに伝達される

1. 最後に、愛着理論の生涯発達の視点についてまとめます。
  2. もともと、愛着理論は乳幼児と愛着対象との関係を説明する理論でした。
  3. しかし、発達初期の愛着関係は次第に内在化され、抽象化された表象を形成します。
  4. この表象は内的作業モデルと呼ばれ、幼児期以降の対人関係に大きな影響を与えます。
  5. 乳幼児期に回避型だった子どもは拒絶型と呼ばれる内的作業モデルを形成し、親密な関係に対して拒絶的、回避的な態度を示します。
  6. 安定型の子どもは自律型の内的作業モデルを形成します。
  7. 親密な関係を好み、助けを求めることも、提供することも容易です。
  8. そのため、安定した関係を築くことができます。
  9. 抵抗/アンビバレント型の子どものはとられ型の内的作業モデルを形成します。
1. Finally, I will describe the attachment theory from the perspective of life long development.
  2. The attachment theory primarily explains the relationships between infants and their attachment figures.
  3. However, attachment relationships in early life are gradually internalized and abstracted and become representations of the attachment itself.
  4. These representations are called internal working models of attachment and have great effect on later interpersonal relationships.
  5. Avoidant children form dismissing internal working models of attachment and take a dismissive and avoidant attitude toward close relationships.
  6. Secure children form autonomous internal working models of attachment.
  7. They prefer close relationships and easily give and seek support.
  8. So they can establish stable relationships.
  9. Resistant/ambivalent children form preoccupied internal working models of attachment.



10. 助けてもらえないかもしれないという不安を経験してきた子どもはその後、拒絶されないために親密な関係に依存し、その関係に強くとらわれた態度を示すようになります。
11. このように、乳幼児期の愛着スタイルはその後の親密な関係に対する態度に強く影響するのです。
12. さらに、母親と子どもの愛着スタイルをそれぞれ測定すると、両者は高い確率で一致します。
13. このような、母子の愛着スタイルが一致する現象を愛着の世代間伝達といいます。
14. それでは、なぜ、どのようにして、世代間伝達は起こるのでしょうか。
15. まず、母親の養育行動、特に子どもからの助けを求める信号を敏感かつ適切に読み取ることができるか否かは、子どもの愛着形成に影響します。
16. さらに、こうした母親の養育行動は母親自身の愛着スタイルの影響を受けます。
17. このことから、愛着スタイルが母親の養育行動を規定し、母親の養育行動が子どもの愛着スタイル形成に影響を与えるという関係が生じるのです。
18. このように、乳幼児期の母子関係から始まった愛着理論が、生涯にわたる親密な関係を説明する理論として、また世代を超えた関係を説明する理論として発展しているのです。
19. 以上で、発達心理学の勉強を終わりにします。
20. 今日は、認知の発達と愛着の発達という2つ
10. Children who have experienced anxiety that they might not be helped depend on close relationships so as not to be rejected and display highly preoccupied attitude toward the relationships.
11. The attachment styles in infancy strongly influence the attitude toward close relationships in later life.
12. Moreover, the attachment styles of children are consistent with those of their mothers.
13. The consistency of infant-mother attachment style is called intergenerational transmission.
14. How and why the intergenerational transmission occurs?
15. First, mothers' parenting behavior, especially sensitivity to children's signals for help, affects attachment styles of children.
16. In addition, this maternal parenting behavior is affected by mothers' own attachment styles (or the internal working models of attachment).
17. Then the following relation will emerge. The attachment styles of mothers rule the maternal parenting behavior, and maternal parenting behavior forms the attachment styles of children.
18. As described above, the attachment theory which started as a theory of infant-mother relationships have developed into a theory that explains life long close relationships and intergenerational relationships.
19. With that note, we reach the end of this talk on studying developmental psychology.
20. I reviewed the fundamental themes and



の話題を通して、発達心理学の基本的なテーマと考え方を概説しました。

ways of thinking through cognitive development and development of attachment.

This brings us the end of this presentation.

Thank you for listening.

## キーワード

・内的作業モデル ・拒絶型 ・自律型 ・とらわれ型 ・世代間伝達 ・養育行動

## 関連用語

- 21. 成人愛着(せいじんあいちゃく): adult attachment
- 22. 恋愛関係(れんあいかんけい): romantic relationship
- 23. 媒介変数(ばいかいへんすう): mediating variable
- 24. 伝達ギャップ(でんたつぎやつぷ): transmission gap

## 日本語解説

題. 「世代」

親、子、孫と続いていく、それぞれの代。または、生まれた時期がほぼ同じで考え方や生活様式が共通している人々。その年代(ジェネレーション)  
例: 世代間の考え方の差は大きい。

文1. 「最後に、」 ➡ 講義に役立つ日本語

文 11. 「このように」 ➡ 講義に役立つ日本語  
これまで述べたことをまとめて指す。

文 12. 「さらに、」  
前にいったことにつけ加えて。  
例: さらに、他の可能性も考えられる。

文 15. 「かつ」  
そのうえに。それとともに。2つの事柄を接続して、それが並行して成り立つことを表します。  
例: 彼は仕事でも有能、かつスポーツも万能で、申し分ない。  
必要かつ十分な条件を満たすようにしなければならない。



【引用・参考文献】

本郷一夫（2007）『シードブック発達心理学―保育・教育に活かす子どもの理解―』建帛社



